

経営比較分析表（平成30年度決算）

大阪府地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪精神医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	精神科病院	精神病院	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	3	-	-	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	30,491	非該当	15:1	

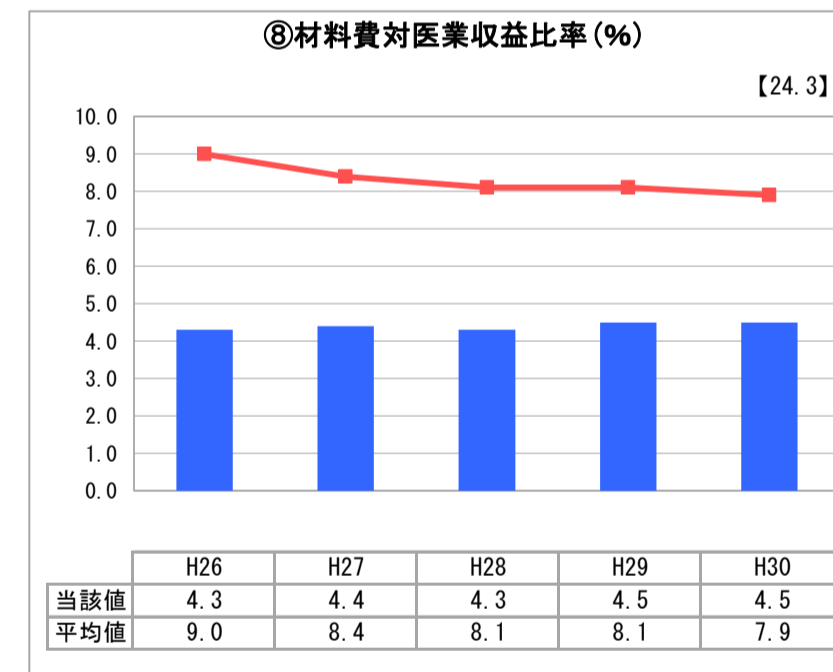
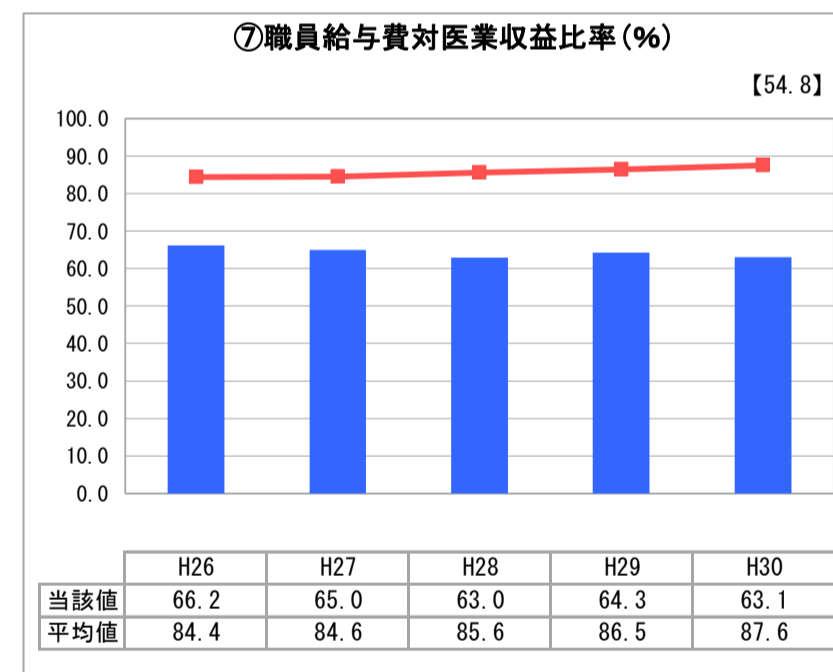
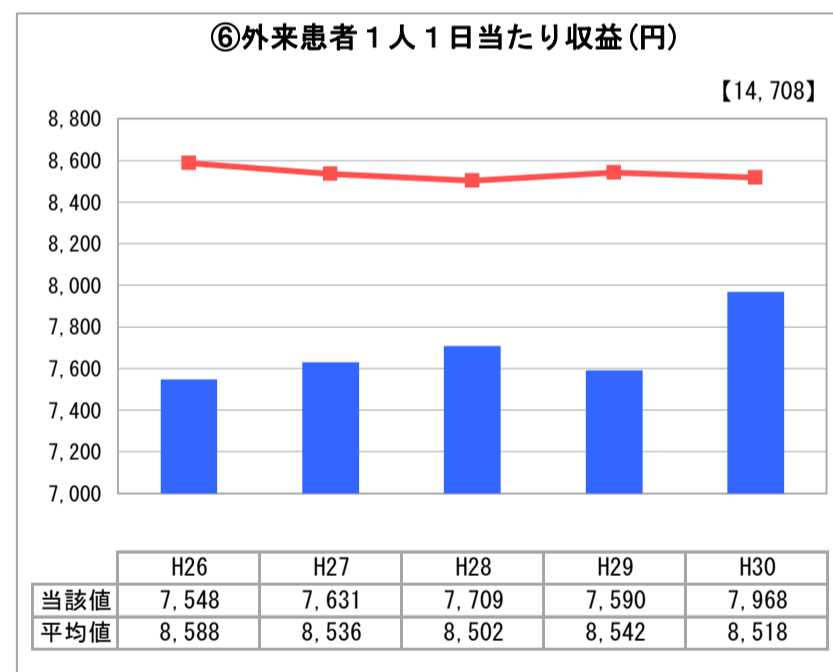
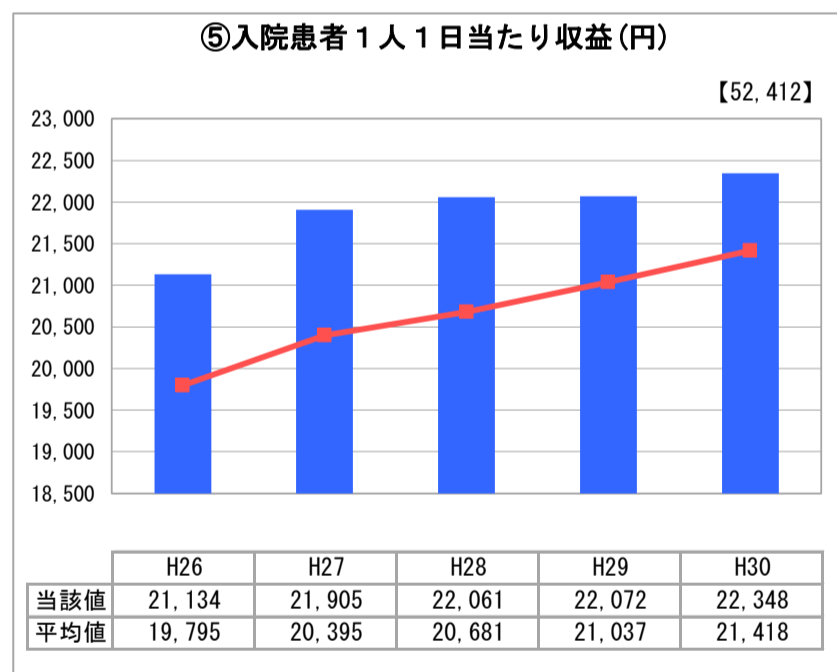
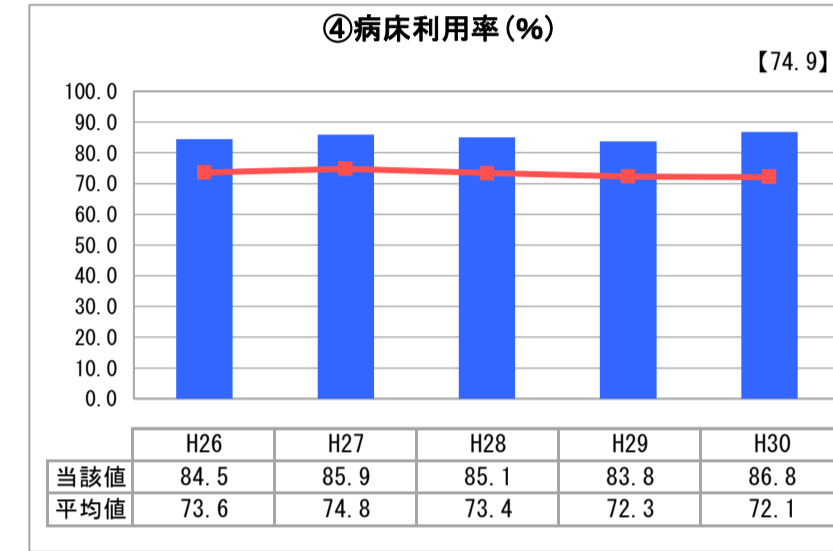
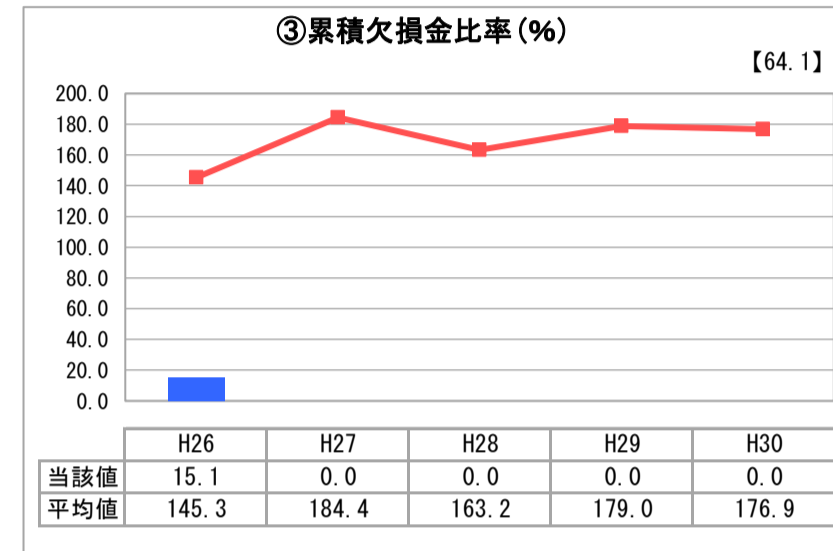
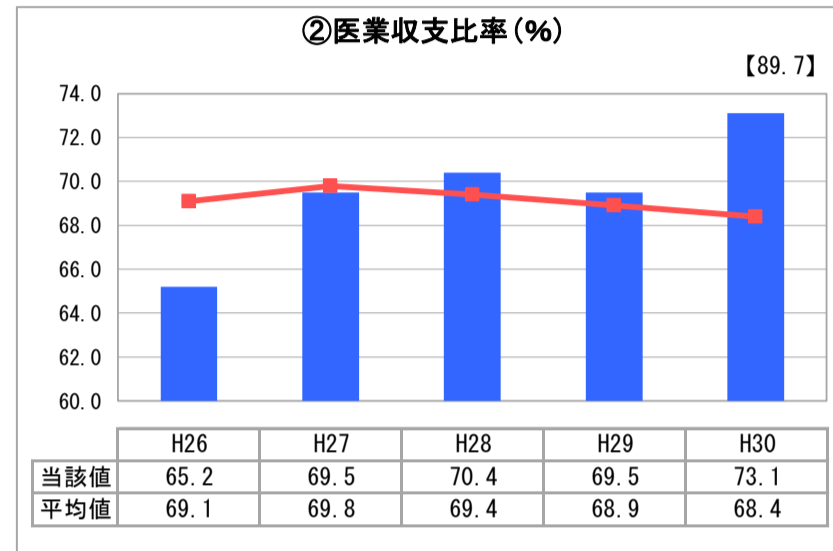
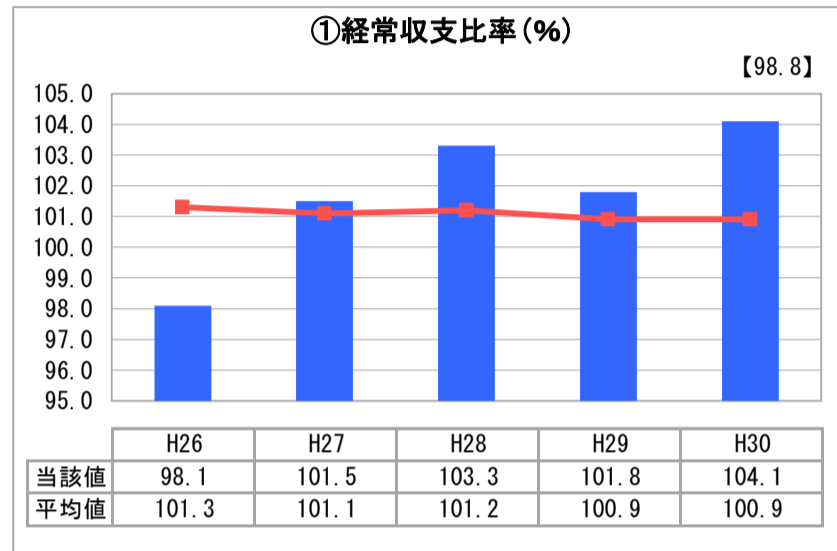
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

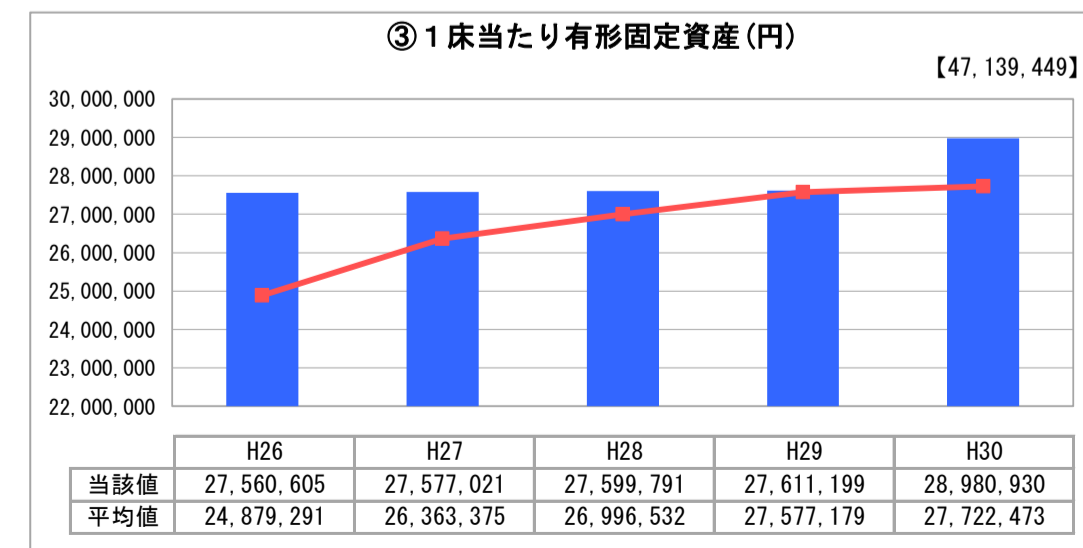
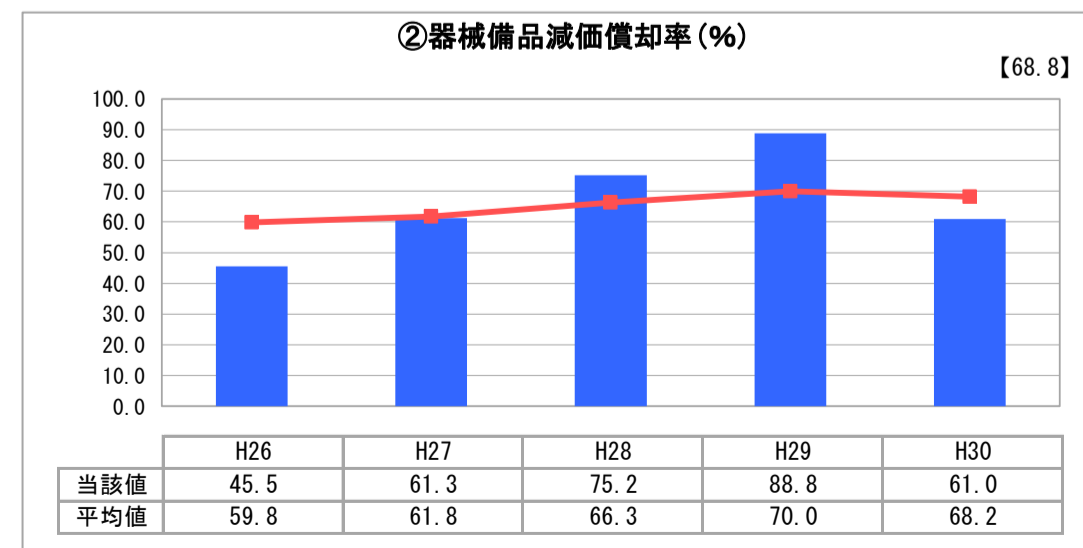
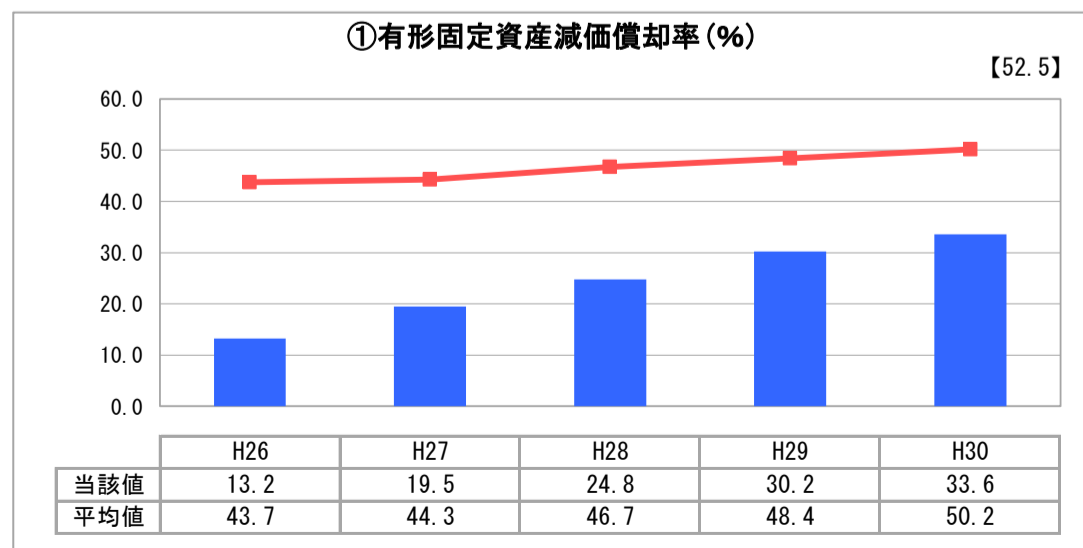
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
473	-	473
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
-	-	-

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-年度	平成18年度	-年度

I 地域において担っている役割

精神医療のセンター機能、民間病院対応困難患者の受入機能、臨床研修指定病院、医療型障害児入所施設、医療観察法に基づく指定通院医療機関、医療観察法に基づく指定入院医療機関、大阪府災害拠点精神科病院、依存症治療拠点機関

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率：病床利用率が前年度より3.0ポイント増加したことで営業収益が約1.2億円増加し、経常収支比率は前年度より2.3ポイントの増となった。また、類似病院平均値よりも約3ポイント上回った。
- ② 医業収支比率：医業費用は前年度より若干増加したものの、営業収益が前年度より大きく増加したため、医業収支比率は前年度より3.6ポイント増となった。また、類似病院平均値を4.7ポイント上回った。
- ③ 累積欠損金：発生していない。
- ④ 病床利用率：前年度を上回り、また類似病院平均値も上回って推移しており、安定した収益確保に繋がっている。
- ⑤ 入院患者1人1日当たり収益：年々増加しており、安定した収益確保に繋がっている。
- ⑥ 外来患者1人1日当たり収益：精神科専門療法の実施件数の増加等に伴い外来収入が増加したため、前年度を上回った。
- ⑦ 職員給与費対医業収益比率：給与費は前年度を若干上回ったが、営業収益が増加したため、職員給与費対医業収益比率は前年度を下回り、類似病院平均値よりも低く推移している。
- ⑧ 材料費対医業収益比率：後発医薬品の増加や、大阪府立病院機構の5病院でSPD事業において一括契約し、医薬品・診療材料の集約化を図るなど、材料費の縮減に努めており、類似病院平均値を下回って推移している。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率：平成25年2月に新病院が完成したため、類似病院よりも低く推移している。
- ② 器械備品減価償却率：電子カルテシステムの更新により、前年を下回り、類似病院平均値も下回った。
- ③ 1床あたり有形固定資産：平成30年度には器械備品の更新があったため、前年度を上回り、類似病院平均値も上回った。

全体総括

府域の精神医療の拠点病院としての役割を果たしており、経営状況は類似の団体と比較して良好と言える。
しかし、「⑥外来患者1人1日当たり収益」が類似病院平均値を下回る点は課題である。
また、社会ニーズに応え、経営の安定を図るため依存症や認知症治療等にも取り組み、それに合わせた病棟再編を行うとともに地域との連携を強化し、積極的に新規患者を受け入れ、病床利用率や入院単価、外来単価の向上により収入の増加を図る必要がある。

※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。